

## 目標を達成するための地図

上 廣 哲 治

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年一昨年につづき、世界中が新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。わが会では、五月に予定していた創立七十五周年記念式典を一年延期し、秋季大会も一部の地域を除いて中止を余儀なくされました。この欄でも毎号、「コロナ」の文字が消えることがありませんでした。皆さんが「またか」と思われるのを承知のうえで、パンデミックをめぐる諸問題に触れないわけにはいかなかったのです。

感染症の蔓延は私たちの暮らしに甚大な影響を及ぼしましたが、同時に、平穩な暮らしを送っている一方、それらを介した風評や流言によって多くの人が混乱に陥り、苦しめられるようになりました。こうした問題は、コロナ禍のなかでますます重要な課題として浮かび上がってきたように思います。

今年の干支「寅」にちなんだ格言に「三人虎を成す」というものがあります。三人の人が言えば、町にいるはずのない虎もいるように思われるという意味で、根拠のない噂でも、大勢の人が言えば真実の

ごとく信じられてしまうことを表します。得体の知れないウイルスに直面し、大きな不安に襲われたとき、誰かが「虎がいるぞ」と叫べば、本当に虎がいるような気になってしまう。さまざまな事件を見るにつけ、冷静な判断力を持つことが、倫理の実践にとって大きな課題であることを痛感しました。

このように記すと、暗いニュースばかりが増えてるように思えますが、そんなことはありません。とくに昨年は、スポーツ選手のさまざまな活躍が、私たちが大いに励ましてくれました。

一年遅れで開かれた東京オリンピック・パラリンピックは、開催の是非が問われ、無観客という制約があったものの、アスリートたちの躍動は多くの人々の心を動かしました。また、アメリカのメジャーリーグ、ロサンゼルス・エンゼルスに所属する大谷翔平選手の投打「二刀流」の活躍は、それまで野球にほとんど関心がなかった人々をも魅了しつづけました。スポーツ新聞はもちろん、一般紙でもその活躍ぶりが大きく取り上げられ、テレビのワイドショーでは特別のコーナーが設けられるほどでした。

結果的に、大谷選手はホームラン王には一步届かず、投手としても二桁の勝利を収めることはできませんでしたが、ベーブ・ルースが百年ほど前に打ち立てた記録を破ることができるのか、日本人のみならず現地の野球ファンも期待し、声援を送りました。アメリカでのベーブ・ルースの存在は別格で、「野球の神様」と呼ばれているほどですから、比較の対象になるだけでもたいへんなことです。さまざまなタイトルを獲得したうえ、十一月には、アメリカン・リーグのMVP（最優秀選手）に満票で選ばれました。名実ともに、世界の野球界を代表する選手として認められたのです。

大谷選手がこれほど注目されたのはなぜでしょう。ベーブ・ルースのように、投打で大きな成果を出したからでしょうか。おそらく、それだけではありません。グラウンド内での一挙手一投足が躍動感に

あふれ、魅力的だったからです。ベンチ内で仲間と戯れる無邪気な姿、他チームの選手とも笑顔で語り合う姿など、試合とは直接関係のない草草さえ、多くの人を惹きつけてしまう。その魅力の源流をたどっていくと、高校時代の部活動に行き着きます。

大谷選手の出身校は岩手県の花巻東高校で、先輩には、西武ライオンズからシアトル・マリナーズに移籍した菊池雄星投手がいます。同じ高校から二人の現役大リーガーが出ているのも驚きですが、さらに注目したいのは、二人の活躍を支えてきた共通の「原点」が存在することです。それは、彼らが野球部に入ってから、佐々木洋監督の指導で作成したという「目標達成シート」です。

このシートの原型は、経営コンサルタントの松村寧雄さんが開発した「マンダラチャート」といわれています。倫理の実践にも応用できそうなので、どのようなものか簡単に説明しておきましょう。

まず、三×三の九マスをつくり、中央のマスを自分が成し遂げたい目標を記します。大谷選手はそこに「ドラー 8 球団（ドラフト一位で八球団から指名されること）」と記しました。周りの八つのマスには、その目標を達成するのに必要な項目を記していきます。大谷選手が記したのは、「体づくり」「コントロール」「キレ」「スピード160 km/h」「変化球」「運」「人間性」「メンタル」の八項目でした。最後の三項目が、精神および倫理に関するものであることに注意しておきたいと思います。

次に、この九マスの周りに、さらに八つの九マスを配置し、それぞれの中央に先ほどの八項目を記します。そして、各項目を達成するための心がけを周囲のマスのマスに記し、シートは完成となります。大谷選手の場合、「運」という項目の周りには、「あいさつ」「ゴミ拾い」「部屋そうじ」「審判さんへの態度」「本を読む」「応援される人間になる」「プラス思考」「道具を大切に使う」といった項目が書き込まれて

いました。実際、テレビに映る彼の行動を見ると、グラウンド内のゴミを何気なく拾っているし、審判に対する態度も紳士的で好感が持てるものです。

また、「人間性」を実現するための八つの心がけには、「感性」「愛される人間」「計画性」「感謝」「継続力」「信頼される人間」「礼儀」「思いやり」といった項目が記されています。究極の目標を達成するために、体力づくりだけではなく、こうした課題が必要だと感じ取っていたのでしょう。大谷選手は、プロになってからもこのシートを縮小コピーし、ロッカーに貼り付けていたそうです。「なりたい自分」をイメージし、そのために何をしなければいけないのかという課題に、毎日向き合っていたのです。

作家の幸田露伴は「努力論」の冒頭で、努力には「直接の努力」と「間接の努力」の二種類があると述べています。前者は「当面の努力」で、さしせまった目標に向かって精いっぱい頑張ること、後者は「準備の努力」で、将来のための基礎づくりとなるものです。譬えていえば、明日の試験に出そうなどころを集中的に暗記する努力と、すぐに結果は出ないけれど、将来のために基礎から学んでいく努力との違いといったらよいでしょうか。

努力してもなかなか目標が達成できないのは、多くの場合、直接の努力ばかりで間接の努力が欠けているからだ、露伴は説いています。大谷選手も目前の結果にとらわれず、「目標達成シート」という地図をたよりに、間接の努力を積み重ねていくことで、もつと大きな成果を得ることができたのです。

私たちが行う「今日一日」の実践は、すぐに何らかの成果を生み出すものではありません。しかし、「我も人も人の仕合わせ」という究極の目標は、そのような日々の地道な実践なしには達成できません。新年という節目に立ち、皆さんも大きな目標達成のための地図をつくってみてはいかがでしょう。